

アーテック工房の木炭塗料

においや有害物質を吸着・分解

アーテック工房（長崎県東彼杵町）の木炭塗料「ヘルスコート」が注目を集めている。においの成分や有害物質を吸着・分解するほか、湿度を調整する機能で室内環境を改善できるのが大きな理由。今夏、ヤマダ・エスバイエルホームの注文住宅に標準採用されるなど需要の伸びが見込まれている。

「ヘルスコート」は、粉碎した木炭とポリアミド樹脂などを混合して塗料にした。塗布後は通気性のあるクロスを張り付けたり、カラー塗料をコーティングして仕上げる。

木炭には「多孔質」という小さな穴が無数にあり、アンモニアやホルムアルデヒド、トルエンなどを吸着する。ホルムアルデヒドは多孔質内で酸化還元反

応を起こして分解され、メタノールやギ酸を生成するという。

塗膜にマイナスの電気（電荷）を与えると、プラスの電気を帯びて空中で浮遊する有害物質が塗膜に引き寄せられ、室内環境改善工法「SUMICAS（スマキヤス）」を使うと、ヘルスコートの能力を最大限活用できるようにする。

また、1平方メートルあたり約15%の水分を吸着・放出する機能によって湿度を調整できるのが特徴だ。

財団法人ベターリビングで行われた試験によると、室内のホルムアルデヒドやトルエンを約80%以上削減できることが実証された。同社は日本（特許第3133962号）と米国で特許を取得している。



ヘルスコートの塗装は簡単だ

ヘルスコートを使用した室内環境は、ヒトの免疫力を向上すると考えられており、大学などで臨床試験が進行中。室内環境学会や臨床環境医学会では、体内のNK（ナチュラルキラー）細胞を活性化し、免疫力を高めるという研究成果が発表されている。

こうした特性が認められ、学校や病院、飲食店、美術館などでの塗装実績が増えてきた。ヤマダ・エスバイエルホームは6月に発売した注文住宅「E-シャリエ」に、ヘルスコートとイオンコントロールシステムを標準採用して発売するなど注目度が高まっている。